

## 農民画家、久保さんが日本画大作を寄贈



11月16日、21区の農民画家、久保謙美子さん(70)が自筆の日本画「ズッキーニ」(100号)を町に寄贈しました。

1997(平成9)年に道展に出展して入賞した大作。中央に大きく配したズッキーニの黄色い花が印象的。後方に淡茶色でニンニクを配し、そのコントラストがズッキーニの花をひときわ引き立たせています。

花はかぼちゃに似ていますが、中央に筋があるところが違いだとい、その葉脈、光と影の濃淡を細密に表現して日本画独特の緻密さが特徴的。

趣味で墨絵を描いていた久保さんが日本画を始めたのは、1984(昭和59)年、44歳の時。農作業のかたわら晩年の日本画家、故小浜亀角氏(当時85歳、旭川)に師事しました。以来テーマを野菜に絞って描き続け、以来1990(平成2)年から13回連続道展入選しました。

1996(平成6)年、東川町文化奨励賞、2010(同21)年度東川文化賞、純生美術会員。

道内で数少ない日本画家。町内の東弘寺に仏画3点を寄進し、小樽市内の旧青山別邸(現小樽貴賓館)には大天井画も描いています。

## 「めだかのクラブ」のハロウィンパーティー

10月30日、農村環境改善センターで小学校児童のための英会話教室「めだかのクラブ」のハロウィンパーティーがありました。



4歳以上の幼児と小学生約60人が集まりました。楽しいパーティーの始まり。「みんな、ハロウィンを知ってる?」。ジョーリン・ヘルガソンさん、ウナ・ヴォルコヴァさんら同クラブの先生たちが、欧米でこの季節に習慣となっているハロウィンの歴史や由来を子供たちに伝えま

した。魔女、フランケンシュタイン、妖精など、ハロウィンならではの衣装をした子供たちは、手足を曲げずに歩いてリレーするフランケンシュタインリレー、かぼちゃのデコレーション飾り、お化け屋敷ゲームなど、楽しい

## 「リアリア料理教室」

11月8日、農村環境改善センターでリトアニア料理教室が行われました。

講師は東京でリトアニア菓子とパンの店を経営しているユラテ・ラシエネさん。家庭でよく食べているというじゃが芋料理「クゲルス」、牛乳とカッテージチーズの菓子など4品を紹介し、ラトビア交流協会の会員ら25人が作り方を学びました。

旧ソ連からの独立20周年を記念して、在日リトアニア共和国大使館などが主催。東京、東川町周辺市町の国内2カ所で開きました。

期間中、東神楽町でリトアニア芸術協会の女性手芸グループ「白い蛾」のフェルト作品、リトアニア特産品を展示即売するリトアニア展を中心に、東川、旭川の両会場合わせて3市町でリトアニア・フェア(11月11〜19日)を開催。東川会場ではフェルト教室(12



日、改善センター)も開きました。